

あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '89 12月号

博物館を考える



博物館には沢山の方がおみえになります。先生につれられた幼稚園や小学校の子どもたち、1人もしくはグループでやってくる中学生や高校生。行事や研究会に参加するために来られる方は勿論、ボランティアとして、博物館活動を助けてくださっている方々もいらっしゃいます。

1階の縄文人のくらしを展示するコーナーは、子ども達によって通称“お化け屋敷”と呼ばれています。かなりリアルな刺激を受けるらしく、小さい人はお母さんの手をギュッと握りしめ、少し大きくなった子でも、見たい気持と怖いのが入りまじるのか、大抵は大真面目な顔になって出て来ます。これは大人になるにつれて、失くしてしまう感覚です。

1階の民家に、今年は一寸した異変がありました。若い男の子4、5人が、あのいろいろ端にあつまって、寝ころがったり片ひざ立てて話しているのです。あまり楽しそうなので仲間入りをしました。はじめは「あがりこんじゃって悪かったかよー」と警戒されましたが、「別に深いわけ

てねえよ」、「今こういうとこ、ねえしさあ」、「話が見えて面白くて…」……気がついてみたらこんな形に坐っていたんだと話してくれました。

いろんなことが見られる、勉強のためになるといった反面、あの民家は、実は人を誘い包みこむ場所で、もしかしたら大変人間くさい情緒をもった空間として体験されていることに、気付かせてもらいました。単なる展示モデルではなかったわけです。そこで昔漸しをしてあげられたらいいな、昔の暮らしや遊びについて教えてやれたら、より具体的に納得出来るんじゃないかなと思いました。興味のある方は来て、坐ってみてください。火を囲んで坐るというのは、人が集う心情の一一番根源的な形なのだと思います。

さて今回、教育研究所の橋本先生から“学校と博物館”という題のリポートをお寄せいただきました。“子どもたちが博物館に行く”ということはどういうことなのか、お知りになりたいご父兄も多いと思います。博物館としても、運営を考えるうえに、大変参考になりました。

学校と博物館

主に、小学校の利用と その結びつきから

ここ文化センターの広場の中心にある噴水の水の飛び方に、心地よさよりも肌寒さを感じるようになった今日も、この広場に元気な子どもたちの声が響きわたっている。

この子どもたちは、学校からそろって博物館へ校外学習としてやって来たのだ。小学校の高学年のようにすからすると、どうやら目的は理科の「星の学習」の一環から博物館のプラネタリウムの参観に来たようである。

このように学校の教育活動に位置づけて、博物館を利用しているところは、市内の幼稚園・小学校を中心にして、たいへん多い。（下記参照）

市内の小学校だけでみても、プラネタリウム参観を主に、館内の見学を実施している学校が、実に大半（約85%）を占めている。これはまた、博物館全体の利用者数からも、相当な割合をもつてゐるはずである。学校の側からすれば、色々と便宜を図ってもらいながら利用をしていることは、教室での学習よりも効果を十分に高められることを、博物館に求めているということに他ならないといえよう。

■ 学校教育関係・プラネタリウム利用 (昭和63年度調べ)

市内・小学校	24校	3051人
市外・小学校	11〃	1576〃
市外・中学校	1〃	224〃
市外・高等学校	1〃	27〃
市内・養護学校	1〃	66〃
市内・幼稚園、保育園	29園	1344〃
市外・幼稚園	6〃	585〃
合計団体数	73団体	6873〃

こうした学習を最近おこなった、小学校5年生の子どもたちから、感想や希望点を聞いてみた。

●博物館に行って、良かったこと

- ・昔の人のくらしかたが分かってためになった
- ・昔、使っていた本物があってびっくりした
- ・平塚の今と昔の違いなどが勉強できた
- ・星座や星のことをやさしく教えてもらえた
- ・プラネタリウムの星空や夜空がきれいだった
- ・動物や植物の展示が实物のようだった
- ・いろんな生物があって知らないのも覚えた
- ・ボタンを押すとランプがついたり、コンピュータークイズがあって楽しかった

●こんなのがある・こうしてくれる といいな

- ・解説などを、音つきや映像でわかるように
- ・クイズやボタンで調べる機械類が増えれば
- ・恐竜の骨や化石なんかがもっとあれば
- ・未来の平塚の立体模型や未来の生活のようす
- ・昔の人の暮らしや遊びが体験できる
- ・子どもが好きになりそうな特集もやって
- ・大事な物は別だけど、じかに手にしてみたい

プラネタリウム中心の博物館利用のほかにも、

●社会科の歴史の学習としての参観 ●館所蔵のものを教材として借用（土器や昔の道具、記録写真など） ●学芸員の先生方には、教師のための理科や社会の研修の講師、教材研究やクラブ活動などの助言や指導、子どもたちの自由研究などのアドバイス などで、直接・間接的に学校としてはご協力をいただいているのである。

さらに、新しい指導要領・社会科では「博物館や郷土資料館等の活用を図る」として、積極的な活用を促している。これは小学校としても、ただ利用をすればというような姿勢でなく、確とした指導計画をもとに十分な打ち合わせにたって、活用していくことでなくてはならないことはいうまでもないことである。

“相模川流域の自然と文化”をテーマとする平塚市博物館は、これからも学校にとって地域学習を進めるうえでの大きな拠りどころなのである。

（文責 教育研究所・橋本）

博物館の本

博物館で販売
している刊行物

(博物館)

(平成元年11月1日現在)

ガイド4 地層と化石	400円
ガイド7 平塚四季の自然	500円
ガイド8 平塚の石仏めぐり	550円
ガイド9 湘南の樹木	550円
湘南植物誌1	800円
湘南植物誌2	800円
湘南植物誌3	800円
大磯丘陵の地質2	900円
大磯丘陵の地質3	900円
相模川流域の弥生時代	850円
平塚鳥類誌	600円
王子台遺跡発掘調査報告書	500円
赤坂遺跡発掘調査報告書	650円
図録 平塚の仏像	650円
図録 相模湾の魚と魚撈	500円
図録 街の生きものたち	500円
図録 飛驒の民具	300円
図録 神奈川の化石	800円
図録 相模川流域の横穴墓	800円
図録 林の生きものたち	600円
図録 野鳥入門	750円
シダ植物標本目録	500円
展示は語る	500円
石仏 7	400円
石仏 8	400円

自然と文化2号	600円
自然と文化3号	700円
自然と文化4号	700円
自然と文化5号	550円
自然と文化6号	600円
自然と文化7号	650円
自然と文化8号	650円
自然と文化9号	700円
自然と文化10号	650円
自然と文化11号	700円
自然と文化12号	800円

※送料は別途申し受けます。

(市史編さん係)

・平塚市史1 資料編古代・中世	5,300円
付録 北条家過去帳・北条家系図	($\text{円}410$)
・平塚市史2 資料編近世(1)	5,000円
付録 近世平塚を学ぶ人のために	($\text{円}410$)
-平塚市近世史入門-	
・平塚市史3 資料編近世(2)	5,000円
付録 近世平塚の領主たち	($\text{円}410$)
-領主の印判と花押-	
・平塚市史4 資料編近世(3)	5,000円
付録 近世平塚と近在市場の相場	($\text{円}410$)
-相場帳と石代納値段-	
・平塚市史5 資料編近代(1)	5,400円
	($\text{円}410$)
・平塚市民俗調査報告書	
3 土屋・吉沢地区	1,300円($\text{円}310$)
4 金目・金田地区	1,400円($\text{円}310$)
5 旭地区	1,300円($\text{円}310$)
6 大野地区	1,300円($\text{円}310$)
7 平塚(旧市域)	1,400円($\text{円}310$)
別編 明治38、9年農具一覧并図解	
	1,600円($\text{円}360$)

ご希望の方は、下記までお申し込みください。

博物館：平塚市浅間町12-41

電話：33-5111

市史編さん係：電話：32-5843

行事案内

12月

- 3 日 体験学習“紙すきー和紙を作ろうー”
9 土 古文書講読会／土曜観察会／石仏を調べる会／ナチュラリスト講座
15 金 星を見る会“星雲と星団を見よう”
16 土 平塚の空襲と戦災を記録する会／土曜観察会
17 日 相模川を歩く会
24 日 土曜観察会“自然の新聞作り”／体験学習“おかざり作り”
26 火 天体観察会 スター・ウォッキング

・寄贈品コーナー：“島憲一氏生態写真遺作展”

12月1日～1月14日

1月

- 13 土 古文書講読会／土曜観察会／石仏を調べる会／ナチュラリスト講座
20 土 平塚の空襲と戦災を記録する会
27 土 古文書講読会／土曜観察会／石仏を調べる会
28 日 相模川を歩く会

・寄贈品コーナー

・縄文土器作品展

1月17日～2月27日

・プラネタリウム

・北極星が変わる：1月7日まで

・木星にせまる：1月13日～3月4日

●星を見る会「星雲・星団を見よう」

秋から冬の星座にある星雲や星団を望遠鏡で眺めます。また、主要なもようのひとつである南赤道縞が淡化した木星も見てみましょう。

日時：12月15日（金）18時～20時

場所：博物館科学教室・屋上

参加自由、当日科学教室にお集まり下さい。

●12月寄贈品コーナー：

島憲一氏生態写真遺作展

・期間：1989年12月1日～1月14日

平塚市花水台在住の島憲一さんは、自然と山が好きで、各地の自然観察会のリーダーとして活躍されていました。博物館の行事の常連でもありました。特に丹沢のゴミ問題には積極的に取り組まれ、毎月のようにボランティアの仲間とともに清掃登山をされていました。しかし、残念なことに病魔に襲われ、一昨年12月に40才の若さで永眠されました。

生前、島さんが撮影された膨大な数のスライドの内、動物や植物を写した約2,500枚が、御遺族の方の御好意で博物館に寄贈され、資料として保管されることになりました。なかには丹沢や大磯丘陵の動物植を撮影した貴重なフィルムも含まれています。

今回、その中から約30点の写真を引き伸ばし、故人を偲ぶ展示を行います。

●年末年始休館のお知らせ

今年も残り少なくなりました。博物館の年末年始の休館は次の通りです。

12月28日（木）から1月4日（木）まで

来春は5日の金曜日から開館いたします。お元気で良い年をお迎えください。